

みたか国際化円卓会議第 11 期 第 4 回会議録要旨

日 時	令和 2 年 11 月 16 日 (月) 18 : 30 ~ 20 : 00
会 場	三鷹市教育センター 3 階 第三中研修室
出席者	委員 12 名 (欠席委員 1 名)、事務局 : 企画経営課長他 3 名、傍聴 : 1 名

【当日配布資料】

- (資料 1) 第 11 期円卓会議議題「多文化共生センター (仮称) ワークショップ」
- (資料 2) 第 1 回ワークショップ意見まとめ
- (資料 3) グループでの話し合いについて
- (資料 4) ワークショップ完成図 (例)
- (資料 5) 席次表

【記号について】

・	委員の発言
→	事務局の発言

【議事内容】

1 開会のあいさつ

・(座長) 7 月の会議では、委員の皆さんの市への関心がとても高く、住みやすいまちにしようと活発なワークショップを行うことができた。今回もワークショップ形式で行うが、前回のグループとは違うメンバーで行い、色々な意見を出し合ってほしい。三鷹市がより良いまちになるために楽しく話し合いをしましょう。

2 ショートスピーチ (野村副座長)

3 ワークショップ テーマ「多文化共生センター (仮称) にあるといいと思う事業・取り組み」

→多文化共生センター (仮称) がこんな場所だったら行ってみたい・参加してみたいと思える施設とするには、どんな事業や取り組みがあったらいいと思うかについてワークショップを行います。

(ワークショップの進め方及びルールの説明)

～ワークショップ (50 分程度) ～

4 チーム発表

A チーム 多文化共生センター (仮称) に必要な事業・取り組み

- ①行けば自然と多文化が感じられる場
- ②住んでいる人が日本も外国も学べる場
- ③デジタル化でのサービス

・チームで話し合ったことは大きく分けて 3 つある。

・ 1 つ目はハード面。

・センターに行けば、自然と多文化を感じられる場にしたい。

・外国人も日本人もこのセンターを居心地がいいと思ってもらえる場所にしたい。

・綺麗な植物、ギャラリーを作って色んな国の美術品を展示するスペース、カフェレストランな

どを設けることで、誰でも気軽に利用できる施設にしたい。

- ・大会議室やオープンなスペースなど、みんなで交流できる場
- ・先日、高尾山に行ったが、麓に高尾山の自然を発信するミュージアムがあり、そこで5分間ほどのプロジェクションマッピングを繰り返し上映していた。多文化共生センター（仮称）でも、三鷹市の自然や歴史、文化を同じように上映すれば、魅力を発信することができ、実際に見に行くと思う。
- ・2つ目は、住んでいる人が日本も外国も学べる場にしたい。
- ・三鷹に住んでいる日本人にとっては、色んな国の言葉教室とか料理教室を通して、文化とふれあうことが出来る。
- ・世界中の国の情報を発信するセンターにしたい。
- ・子育てや就労支援も行え、日本独特の習慣・風習や、日常の常識・情報を教える教室があるといい。例えば、ごみの分類は地域によって異なるため、三鷹市ではこうやるということを教えるなど。
- ・差別や偏見をなくすために、いろんな外国の人が相談できる窓口とか、LGBTの方が相談できる窓口もあれば、三鷹に住んでいるいろんな国の、様々な文化やライフスタイルで暮らしている人たちがさらに住みやすいまちになると思う。
- ・3つ目は、この時代に合わせてデジタル化でサービスを提供できるといい。
- ・施設に入るとWi-Fiを自由に利用できる。
- ・三鷹市の観光情報や魅力を発信するSNSとかウェブを利用したサービスを提供するなど。
- ・QRコードもすでに普及しているため、QRコードを活用して、音声ガイドや映像が流れるというシステムを推進したい。

## Bチーム 多文化共生センター（仮称）に必要な事業・取り組み

### ①わくわくに出会える場所

### ②誰でも気楽に入れる

- ・多文化共生センター（仮称）をつくるにあたって、多くの人に訪れてもらうことが重要。
- ・堅苦しく行く場所だと思まらないというのがBチームのテーマ。
- ・タイトルにある通り、わくわくに出会える場所であると同時に、気楽にふらっと入れるということが大切。
- ・近くに来たら、ちょっと寄ってみようかと思える場所にしたい。
- ・キーワードとしては3つあり、「アクセス」、「体験」、「支援」。
- ・アクセスとしては、センターにバスターミナルがあり、市内のシャトルバスはすべてこのセンターを通るようにし、そこから、ジブリ美術館や太宰治記念館に行くことができる。
- ・いろんな国の料理を食べたり、お茶を飲んだりすることができる休憩所・レストランとして利用してもらう。
- ・様々な体験ができる場として提供できる施設にしたいという意見が多く出た。
- ・三鷹は歴史があるまちだから、プチ博物館のような、今と昔の物が展示されていたり、三鷹にゆかりのある有名人を紹介するスペースを設けて、三鷹の歴史がわかる場所があるといい。
- ・ワールドカップやオリンピックのようなイベントの際に、みんなで集まって、そこでいろんな

国を応援して、盛り上げられるスポーツバーのようなものがあるといい。

- ・特産品を用いて展示即売や料理の提供をしたい。フリーマーケット形式での販売も面白いと思う。
- ・特定の言語で会話し、勉強できるようなコーナーを作りたい。例えば、中国語のコーナーに行くと、挨拶だけでもいいし、会話をして、コミュニケーションをとり、言葉も学べるようなスペースにしたい。
- ・センター主催の特別なガイドツアーを行いたい。天文台や ICU の中など、普段は入れない場所や、いろんな企業にも行くことができ、そこで、会社や工場見学ができるといい。
- ・日本人も外国人も誰でも、気軽に安心して相談ができる場所を設けたい。
- ・安く利用できる教育の場や、会社の見学・職業体験なども行い、市内留学生の就職支援ができる場が欲しい。
- ・市民によるボランティアガイド事業として、初めて訪れた人に市の魅力紹介や案内を行いたい。

## 5 その他

→次回の会議は2～3月を予定しており、第3・4回会議で議論した内容を基に、第11期の提言をまとめていきます。

・(座長) 今回のワークショップでも多くのアイデアを出し合うことができ、ご協力に感謝する。今回のワークショップを通して、多文化共生センター(仮称)は、様々な人に必要とされる施設になると思うと同時に、私自身も早く行ってみたいと感じた。三鷹市がより良いまちになるために、今回出た意見が取り入れられた施設ができると良いと思う。

以上